

# 令和5年度 第2回 東京都北区在宅療養推進会議 要点記録

開催日時 令和5年3月27日（水）午後7時30分

開催場所 北とぴあ 14階 スカイホール

## 1 開 会

## 2 議題及び報告事項等

### （1）各検討部会の取り組みについて

#### ・連携事業評価部会

在宅医療・介護連携推進事業の周知チラシの作成

<事務局>

- ・在宅医療・介護連携推進事業の取組について、認知度を上げるための方法を検討した結果、専門職の方々が集まる機会に、事務局で事業PRを行い、認知度を上げていくこととした。
- ・事業PRチラシについては、次年度に作成予定。

#### ・非常時における生活支援体制検討部会

介護事業所向け被災後を想定した在宅療養支援における留意点【資料1】

<事務局>

- ・介護事業所向けに被災後を想定した在宅療養支援における留意点を作成した。概要としては、在宅療養者の病状の確認と情報の保管、避難行動要支援者名簿の登録、避難の手順や避難物品の確認と準備、連絡先の共有、在宅療養者の室内環境における安全対策など、基本部分を掲載している。
- ・周知方法は介護事業所専用サイトの北区ケア倶楽部で行う予定。

#### ・在宅療養理解促進部会

ACP 普及啓発講演会の実施【資料2】

介護事業所を対象としたハラスメントに関するアンケートの実施【資料3】

<事務局>

- ・金子雅子先生を講師として招き、3月21日にACPの普及啓発講演会を開催。
- ・介護事業所を対象としたハラスメントについては、介護現場におけるハラスメントの実態把握のため、ケア倶楽部のアンケート機能を活用して令和6年1月にアンケートを実施。
- ・アンケート回答率は25%程度。
- ・身体的暴力については、全体の14%が受けたこともあるということで回答。
- ・怒鳴られる等の精神的暴力については、全体の48%が受けたことがあるという回答。

- ・ハラスメントへの対応策として、活用したいと思う行政支援については、利用者向けチラシの提供が最も多く、全体の50%以上を占めていた。
- ・利用者向けのチラシの作成について、今後検討していく方向である。

#### <主な意見>

- ・区民への啓発に関しては、デザインが重要なため、アピール性のあるようなものを期待している。

### (2) 令和5年度在宅療養推進事業の報告(概要)について【資料4】

#### <事務局>

- ・区民啓発講演会として、ACPの普及啓発講演会を平成30年度以来開催。
- ・区民向け摂食えん下講座については、令和元年度以来開催。
- ・今後、報告書の作成を進めて行く。

### (3) 令和6年度の在宅療養推進会議の進め方について

- ・各委員から寄せられた課題について【資料5】
- ・部会の設置について

#### <事務局>

- ・令和6年度取り組むべき課題として、介護現場等のハラスメントとACPの普及啓発が委員より挙げられた。
- ・ACPの普及啓発については、在宅療養推進全体の普及啓発も踏まえ、親会の回数を少し増やして検討することを考えている。
- ・令和6年度の部会設置は介護現場等のハラスメントを考えている。

#### <主な意見>

- ・ハラスメントについてのチラシ作成等、北区がバックアップをする意味では、次年度もハラスメントに関する部会を設置してほしい。
- ・ハラスメントについては、部会で続けて、最終的に何をするかを考える必要がある。
- ・ハラスメントの問題は、北区だけの問題ではなくて、都内全域でも検討されているかと思うが、東京都全体としては何かガイドラインとか、支援の方向性みたいのが出ているのか。
  - > (事務局) 厚生労働省が対策マニュアルを作成しており、東京都については相談窓口等が設置されている。
- ・ACP普及啓発について、俯瞰して見ていく形が良かったため、部会を増やすより、親会を増やした方がいいと思う。

#### (4) 地域共生社会について【資料 6】

<委員より説明>

「P 2～4」

- 精神疾患は幅広くなっており、小学生や中学生のひきこもりなど学校に行けない子どもに親御さんは必死になっているのが実情である。
- 令和4年度の北区の実態として、高齢者が8万6,000人以上であり、要介護5の認定を受けている方は増加しており、障害手帳を交付されている方は、1万8,000人強で増加している。
- 0～14歳で訪問看護を受けている方が増えており、精神疾患の方も全国的に増えている。
- 高齢者と比べ障害者の支援サービスが少なく連携が難しい状況。

「P 4～5」

- 地域共生社会には、丸ごと断らない相談とか、共生サービスの推進、そして地域共生に資する取組の促進というのを検討してほしいということ。制度の壁を越えて、いろんな相談支援を構築すべきだということが挙がっている。
- 支える側、支えられる側という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人一人生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らせる包摂的な社会が重要。

「P 6～10」

- 障害者支援におけるネットワークがほとんどないと感じていたため、NICUの看護師等、様々な方に声かけをして、顔が見える会議として、小児地域連携会議を立ち上げなど多職種での連携を少しずつ進めている。
- 北区の政策提案協働事業として、摂食えん下機能が落ちている子どもに対して、本人の口から食べさせたいという親御さんのため、形態食が提供できる飲食店を記載した形態食マップが作成されている。

「P 11～12」

- 高齢者だけの機関ではなく、障害者等への支援における経験値を持った方も含めて、ネットワークを構築するということが重要。
- ヤングケアラーの方たちに対して、訪問介護士等が連携していく、そういうアウトリーチに向けた支援が必要。
- 認知症カフェなどはあるが、障害とか高齢にかかわらず、居場所づくりが広がることが大事。

<主な意見等>

- 民生委員では、障害者とか生活福祉、生活困窮者とかあまり接する場所が少ないため、もっと積極的に関われば良いなと思う。
- 高齢者を対象とした事業でも、要支援認定を受けている方で精神疾患があったりする

場合には、障害や自立支援といった分野の方々と連携を取るとというのが非常に大事なと感じた。

- 行政として縦割りを完全に廃止することはできないと思うが、横断的な取組というのできるように考えていく必要がある。
- 障害者歯科センターを40年以上前からやっているが、多職種の方々が一つになって、一人の障害者または高齢者などをどう支援するかを考える会が必要だと感じた。
- 日々の業務に追われて、地域で支援するコミュニティになかなか入れていないため、もっと地域を知り、コミュニティに参加しなければいけないと思った。
- 地域に密着し切れてない部分があるため、形態食マップなど、細かい情報については入ってこない。医療機関につながっている人こそ、こういう情報を必要としている方が多いのではないかと常々思っている。
- ヤングケアラーの課題については、アンテナを立てて、ネットワークを作っていく必要があると感じた。
- 行政より、高齢・障害等の異分野交流や、協議の場など拡大した地域ケア会議のようなものを作っていく必要がある。

### 3 その他

### 4 閉会